

# 町民文芸



## 只見短歌会

八月詠草

大塚栄一 指導

足裏の熱き廊下に幾度も爪立ちしつ洗ひ物干す

古川 英子

盂蘭盆に帰省せし娘と新盆の友を悼みて香を焚き継ぐ

吉津 政枝

葛の花匂ふ墓地にて思ひ出をたどり丹念に草を刈りゆく

馬場 八智

友引と火葬場の都合重なりてすでに焼かれし兄を送りぬ

皆川 恒子

暑きなか一輪挿しにカーネーションを施設の部屋に姪が活けゆく

五十嵐 英子

連日の猛暑に萎えし野菜類に夕立待てど音のみひびく

渡部 ゆき子

夫在らば金婚式と思ひるつ我らには来ぬ祝日なりき

五十嵐 夏美

田の隅を手刈りする稲束ねむと固き古藁夜露に当てぬ

目黒 富子

枝豆を食べば亡き祖母思ひ出づ三粒づつ穴に入れて植ゑにき

齊藤 ちひろ

菜や大根今年は早く蒔き終へて芽の出るを待ち夫は水やる

渡部 ヨリ子

投票終へ町中めぐると娘言ひ老いたる夫とわれを乗せゆく

新国 洋子

(出詠順)

## 只見俳句会

九月例会

目黒十一 指導

稲田張るテープ案山子の揺れ止まず

リウコ

一日を緋鯉になって過したし

敦子

御遷宮行列続く稲の秋

康女

十葉を抜きし香りに母想ふ

康女

今よりも若き時なし蟻急ぐ

一穂

鼓笛の音遠くに聞きて稲を刈る

一穂

母愛でし芙蓉一輪夏おしむ

礼

産土神の新注連懸り秋祭

礼

カーテンの引かれし窓や盆の後

修一

静脈の流れに抗し汗垂るる

一灯

芋掘って仲直りする気配見え

一灯

背表紙の破れアルバム終戦日

積まれある白木のデコや秋暑し

恒夫

デコの目の開く二階や竹の春

邦男

爪を切る音のたしかに今朝の秋

邦男

小流れの音の入りくる夏座敷

吉児

御遷宮五度目は星の空の下

吉児

大団扇右に左に露払い

隆堂

鬼百合や一人暮らしが村に増え

隆堂

堆肥積む草の香りや汗滾る

邦夫

敗戦忌上海戦は星一つ

笑羊

山からの風に残暑を凌ぎけり

笑羊

遠雷や炭の匂いの味噌にぎり

笑羊

川の霧上がり青空ミュージアム

笑羊